

新基地建設反対名護共同センターニュース

基地内外のコロナ禍でも工事強行に広がる怒り

「オール沖縄会議」は、
コロナ感染症予防のため、
8月1日(土)ははじめ、
8月中のゲート前県民
大行動は行いません。



K9 護岸前の平和丸船上で、澤岬書記長(右)からスピーカーを贈呈されるヘリ基地反対協・仲本事務局長

この日、沖教組本部書記長など6人が平和丸に乗船、海上から現場を視察しました。沖教組那覇支部の澤岬(たくし)優子書記長は、「初めて視察し、勉強になりました」と話していました。同支部からヘリ基地反対協にスピーカーとアンプ2組が贈呈されました。

在沖米軍基地内外でコロナ感染が急拡大する中、防衛局は辺野古新基地建設を強行し、県民から不安と怒りが広がっています。こうした中、ヘリ基地反対協の海上チームは27日、抗議船2隻、カヌー10艇で大浦湾に繰り出し、土砂を運んできた運搬船に「違法な赤土を辺野古の海に投入するな!運搬船は帰れ」と抗議行動を展開しました。(写真↓)

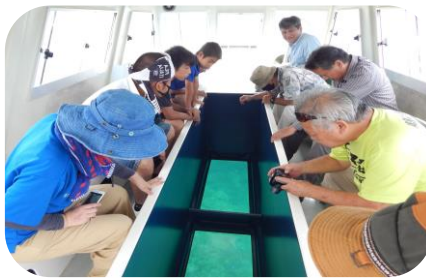
沖教組がスピーカー贈呈

「違法な赤土投入許さない」と海上行動



“海がきれいだった。楽しかった!”

共産党県後援会がグラスボートで視察



次回ツアーは、8月21日(第3金曜日)に行います。希望によりグラスボートに乗船します。お申込みは、日本共産党沖縄県委員会 ☎098 (862) 6232 へ

共産党沖縄県後援会は24日、毎月定例の辺野古ツアーを行い小学生含む21人が参加しました。この日、辺野古の現場と、グラスボートで大浦湾を視察しました。東村高江から弟の漣君(小4)とともに参加した中学3年の安次嶺現輝(げんき)君は「海がとってもきれいだった。サンゴと魚が見られて、楽しかった」と話していました。

沖商連が会員拡大目標を突破し総会

宮古民商が誕生 新会長に村濱氏

沖縄県商工団体連合会(沖商連)は26日、沖縄市内で第38回総会を開きました。コロナ禍の中で「持続化給付金」など中小業者の要求実現運動で、今年5月以降の3か月間に全県で114人の新会員を迎えました。前総会で決めた拡大目標2,200人を超過達成、今年3月に県内6番目の宮古民商を誕生させるなど躍進の中で総会を迎えました。沖商連・民商の持続化給付金の給付額は、全国でトップクラスの684件、約7億円と報告されました。スローガンには業者独自の要求



とともに新基地断念、普天間基地の閉鎖・撤去を確認。新会長に村濱興達氏を選出、島袋恵佑県議が来賓の挨拶をしました。

当ニュースが300号に! 各界からメッセージ その⑤



(名護) ヘリ基地反対協議会
事務局長 仲本興真

名護共同センター300号発行本当にご苦勞様です。現場に足を運び、現状を知らせ、組織する、とても大切で、基本的なことを行っています。今、新基地建設反対の闘いは、それぞれ新聞やフェイスブック、ブログ、ニュース等で発信されています。しかし、共同センターニュースのように、長年の経験と科学的視点がきちんとしている発信はあまりありません。今後とも名護共同センターニュースが闘いの力として大いに活用されるよう願っています。



(東京) 四谷総合法律事務所
弁護士 内田雅敏

辺野古での抗議行動に参加し、事務所に戻ると、ほどなく、名護共同センターニュースが届く。早い、早い、簡潔で読みやすいレイアウト、辺野古の現在(いま)がわかる。すかさず、総がかり行動委員会、戦争をさせない1000人委員会のメーリングリストに流す。全国で多くの人々が見ているはず。大変な作業量だと思いますが、引き続きよろしく願います。



(那覇) 辺野古障がい者のつどい実行委員会
実行委員長 波嘉敷綾秀

名護共同センターニュースは辺野古新基地建設反対を願う県内外で活動する一人一人を結びコンパクトで最高の広報紙です。信州沖縄塾(当時)の仲間から上がった「辺野古に障がい者集まれ」の声、「辺野古障がい者のつどい」の開催につながりました。今年12月の第一土曜日には第4回目のつどいを開催する予定です。日米の政府に辺野古新基地断念を勝ち取るまで「勝つまであきらめない」の思いを胸に、「しなやかにしたたか」な辺野古の行動に参加します。